

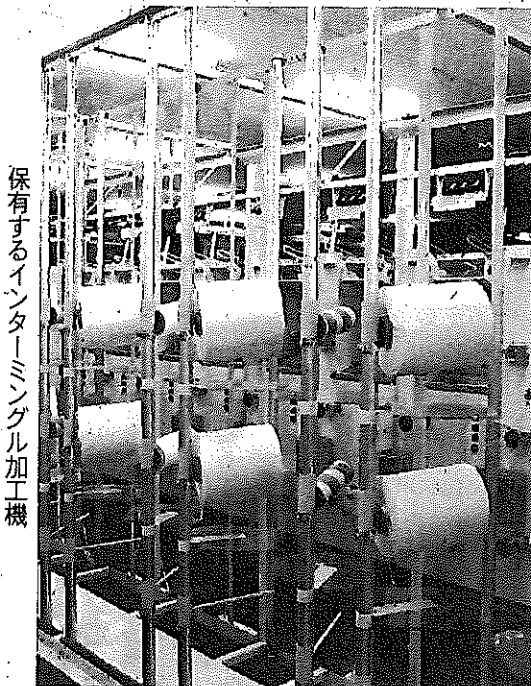
藤井燃系

# ナイロンの糸加工工量拡大へ

## 供給不安見込み増産図る

カーペット向け糸加工の藤井燃系(三重県四日市市)はナイロンの糸加工工量を拡大する。今後、ナイロン糸の供給不安が見込まれることから増産を図る。現在、人員の補充や設備の増強を進めて

おり、月産450トから最大600トまで加工できる体制を構築する。カーペット向けでインビスタ(米国)が7月をピークに、BCF(かさ高連続長繊維)ナイロン66の供給体制が変化しつつある。



保有するインターミシグル加工機

実際、藤井燃系への注文は昨年9月ごろから増加している。それまでは、新型コロナウイルス禍による受注減と糸の細番手化で加工量は減少し生産調整をしていた。藤井由幸会長兼CEOは「今はキャパシティを超えて

受注が入っており、生産が追い付かないと話す。そのため今夏をめぐって外国人技能実習生を含めて人員を10人程度増やし、加工量の拡大を図る。加工機は既に台湾入済みで、今期(2023年

3月期)は年間6360トの加工を目指す。藤井会長兼CEOは「サブライチェーンの一端として、しっかりと供給責任を果たしていきたい」と力

持つ最大手のメーカーだ。ポリプロピレン(P)の紡糸も手掛ける。同社のナイロン糸加工

は空気力で複数のフィラメントを絡み合わせるインターミシグル加工を主力とする。国内では同加工で約半分のシェア